



ホア ビン (平和)

HOA BINHレポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD, 333, Yamabuki-cho, shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com info@ifcc1985.com



会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキュー)店(当座)0188872

2012年を相互交流の年へ

JVPF副理事長 鎌田篤則

年始にあたり、皆様の日頃のご協力、ご支援に感謝申し上げます。

昨年、記すべき二つの出来事がありました。

●JVPFはIFCC国際友好文化センターが一九九六年から始めてきたベトナム戦争枯葉剤爆弾被害者支援のためのベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート活動を背景に、二〇一〇年に村山富市・元日本国総理大臣を会長に迎え活動を開始してきました。

こうした日本からの支援活動に比べ、3・11東日本大地震・津波被災地の宮古市、栗原市、福島市でベトナム民族アンサンブルの「友情コンサート」を開催することができました。グエン・フー・ビン在日ベトナム大使夫妻の手で、宮古市では仮設住宅地の一角に復興祈念植樹も行われました。

ハノイ市友好委員会連合からの支援金、ホーチミン市に村山日本語学校の学生の手による激励寄せ書き等もJVPFに届けられ、ベトナムからの友情の心を届ける橋渡しをすることができました。

●もう一つは、枯葉剤爆弾被害者を一五年にわたり追跡記録してきた『枯葉剤に遭った子どもたち』(JVPF会員、細谷久美子著、同時代社刊)が発行されたことです。

昨年は枯葉剤爆弾が投下されてから五〇年目の年でもありました。ベトナムの国づくりが興隆するにつれ国内の人的移動が活発化します。体内に枯葉剤爆弾後遺物を残した人が文字通り“不発弾を宿して”全国化している形になってきています。この事実を記録してきた本です。

子孫への影響が確実であろう“フクシマ原発事故”被害を、ヒロシマ・ナガサキ被爆の体験の上に加えられた日本国民が起こすべき行動は、ベトナムでの枯葉剤爆弾被害を追い続けてきたJVPFの活動と同一のものだと思います。

自分の後始末もできない日本政府のベトナムへの原発輸出には反対しなければならぬと思います。ベトナム国民の主権を是としても。

今年、一例ですが、昨年結成された日本ベトナム平和友好埼玉連絡会が中部クアンナム省での枯葉剤爆弾被害者への医療器具支援を計画していますし、広島ベトナム平和友好協会は「広島原爆ドーム刺繍絵」を枯葉剤爆弾被害障害者の自立支援として委託製作するプロジェクトを準備しています。

会員の皆様、支部の皆様、そして御協力いただいている皆様の一歩前進の年になりますようご多幸を祈念いたします。

一月吉日



宮古市の仮設住宅隣に祈念植樹するグエン・フー・ビン大使夫妻、アンサンブルメンバー (2011年10月14日)

相互交流へと発展したベトナムコンサート

～東日本大震災、津波被災地を慰問 東日本八カ所で～

宮古公演

被災地に友情を届ける

JVPF会員の皆様をはじめ、全国の皆様より暖かいご支援をいただいております。東日本大震災被災・復興支援のため、二〇一一年一〇月一四日、ベトナム民族アンサンブル・チャリティコンサートが宮古市「グリーンピア三陸みやこ」で開



宮古市役所を訪問するグエン・フー・ビン大使夫妻一行

催されました。今回の公演は東日本大震災で被災された皆さんをぜひ励ましたいと、コンサートスタッフより申し出があり、組合事務所が津波の被害を受けた宮古市職労、竹花邦彦宮古市議会議員のご協力により実現したものです。

チャリティコンサートは岩手においては、'97盛岡公演岩手県国保会館大ホール以来県内七カ所で開催してきました。

コンサート会場となった「グリーンピア三陸みやこ」の敷地内には、現在、仮設住宅が四〇七戸建てられています。当日は、多くの被災者の皆さんにおいていただきました。

アンコール曲の「ふるさと」では、会場の皆さん全員が涙を流しながら、一緒に歌っていただきました。

このコンサートにあわせ、グエン・フー・ビン駐日ベトナム社会主義共和国大使ご夫妻も来県され励ましをいただきました。達増岩手県知事、名越宮古市副市長から被災状況を聞き、改めてベトナム社会主義共和国が必要な支援を行うとの表明をされました。

会場敷地内において、ハノイ市内の街路樹としてよく見かける合歡の木を記念植樹し、「東日本大震災被災者の生活が一刻も早く平常に戻るように」と刻まれた記念碑を建てていただきました。

(金澤 康)

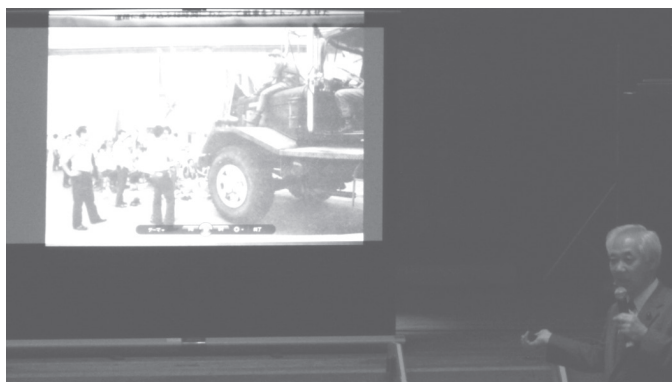
相模原公演

～ベトナム戦争を風化させない～

四年ぶりとなった相模原市でのベトナムアンサンブルコンサートは国際反戦デーの一〇月二日夜、相模原南市民ホールで開かれた。参加者は予定よりも少なかったが、内容的には評価の高い、「ベトナム戦争と相模原」という講演も含め、「いいコンサート」になった。

現在、相模原市には三つの米軍基地があり、かつてベトナム戦争の激しい時期には七カ所の米軍基地が居座り、それぞれの基地がベトナムの戦場と直結していた。一九七二年の相模総合補給廠を中心に関われた、「ベトナム戦争輸送阻止闘争」は日本で闘われた、ベトナム反戦運動の最大の闘いになり、国際的にも評価された市民の運動となった。

このベトナム戦争輸送阻止闘争も四〇年がたつ中で、新住民の多く住む相模原では風化もいじむしく、若い人たちには「ベトナム戦争」そのものも知らない人が多くなっている。そこで今回のコンサートではアンサンブルの公演まえに、「ベトナム戦争と相模原」と題した講演会を開催。一九七〇年代の画像を使って、相模原市内の米軍病院で「ベトナム戦で負傷、死亡した米兵を治療したり、死化粧して棺桶に入れ本国に送った」の状況や相模総合補給廠での「戦車の修理工場の実態」、「戦車輸送阻止闘争の様子」等を報告した。参加した若い人からは初めて知った「相模原とベトナム戦争の関係」「ベトナムの戦場で壊れた



相模原市内のベトナム戦争時の痕跡を説明する金子さん

戦車などが相模原に運ばれ、付着した枯葉剤「ダイオキシン」を工場で洗ったようす」などに驚きの声が寄せられた。また、ベトナムアンサンブルの若いメンバーも公演後の交流会で、「日本で戦車輸送阻止の闘いがあった事を初めて知った」として、今後、ベトナムでも「こうした事実を広めていきたい」との声が寄せられた。

相模原でベトナムアンサンブル公演を行う意義を改めて確認することのできた今回の公演、反省会の席上でも、様々な意見が出され、次回はもっと人々を集めようと確認された。

(金子 豊貴男)

越谷公演

（東日本大地震義援金を呼びかけ）

二〇一一年一月二四日午後六時から越谷市中央市民会館劇場でベトナム民族アンサンブルコンサート越谷公演を開催しました。当日は、受付の隣に枯葉剤被害が今もなお続いており、その写真を展示することにしました。今回の公演は「東日本大震災で特に被害が大きかった岩手県、宮城県、福島県の被災地支援」として行われ、剰余金



公演に先立って病院を慰問

と会場カンパ金計八六四八四円を「東日本大震災義援金」として（社）埼玉県共同募金会を通して、送金しました。

当日は、越谷市立病院の患者さんたちを前に、演奏を披露させていただきました、あまり聴いたことのない楽器が使われており、大変感心されていたようでした。夕方から公演が行われましたが、心配をしていたお客さんの入りもそれなりにありまして、実行委員の苦勞が報われたのではないかとほっとしたところです。

（横川尚夫）

の、東広島市立西条中学校との「姉妹校提携協定書」調印式。グエン・ティ・ホア校長（左）は、「子どもたちの将来と両市の発展につながる記念すべき日。相互理解を深め合う交流を進めたい」と挨拶されました。瞳輝く子どもたちの美しい調べに迎えられる音楽の授業を見学。訪問団は、随所で湧き起こる「ホアビン（平和）、ホアビン（平和）」コールのこだまに送られ、タンコー中学校を後にしました。

島 第三次 ベトナム平和友好訪問団
（盛りだくさんの交流事業）

一月六日から七日間、第三次ベトナム平和友好訪問団がベトナムを訪れました。

例年の少数民族寄宿高等学校奨学金授与式、医療器具贈呈、枯葉剤被害児リハビリセンターへの支援物資贈呈などに加え、東広島市立西条中学校とクアンチ省のタンコー中学校の「姉妹校提携協定」調印、少数民族村の訪問などを主な日程とした訪問でした。

少数民族村を支える若者

初日、世界遺産の景勝地「ハロン湾」クルージングと美味な魚介類を堪能し、二日目にクアンチに入る予定でした。折しもの雨期、しかもタイのアユタヤ洪水にみられる例年になく「爆雨」のため、フェ空港閉鎖。一日遅れでようやくクアンチ入り。

旧南北ベトナム国境「17度線」や不発弾処理場の視察、ベトナム戦争参戦兵士との交流などがキャンセルになりましたが、有意義な訪問でした。

少数民族村を支える若者約一四〇平方キロに八四〇家族三九五四人が暮らすグンニユ村。その下に一〇ある小さな村の一つ、サフィ村のホー・バン・ラー村長は三四歳と若い。平均月収三五万ドン（約一五〇〇円）。七〇%の村人が年間約三ヶ月余り食糧不足に苦しんでいる。政府やNGOなどの援助で過ごしている。一つの幼稚園と小学校二校、中学校一校に一五四〇人が通っている。「子どもたちが希望だ」と話す若い村長。村全体に一つしかない健康センターを担っているのも、出産を二ヶ月後に控えている若い二八歳の女医さん。八〇年に設立されたセ

ンターには他に二人の看護師がいるだけで、器具も乏しく古い。日本の「学校の医務室」にも及ばない。嬉しいことは「原因が分かって治療できるとき」と語る笑顔が印象に残りました。

タンコー中学校で調印式

当初予定になかった省人民委員会を表敬し、グエン・コク・コン主席（省知事）と会談。初めての知事との会談では、広島ベトナム平和友好協会の諸活動に対する高い評価とともに、クアンチ省およびクアンチ市と広島県および東広島市との都市間交流の推進について強い意欲が示されるなど、重ねられてきた交流を礎に、さらなる発展と飛躍を感じさせるものだった。

続いて少数民族寄宿高等学校を訪れ、今年入学の第三期奨学生を含む六〇名の奨学生に奨学金を授与。

タンコー中学校で調印式豪雨のなか、クアンチ市の中心部に位置するタンコー中学校（教師六九名、生徒九九五名）で

今年、少数民族寄宿高等学校の第一期奨学生が卒業します。引き続き、六月初旬く八月末にかけ「第四期奨学生」のサポーターを募集しますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

（赤木達男）



タンコー中学校で「ホアビン」コールの出迎え

文化交流で友好の絆を深める——長野ービンフック省

一月一日成田からベトナム訪問に向かった長野市日本伝統文化交流協会一行一〇人とJVPP友好訪問団一行六人は、文化交流のため一月二日からのビンフック省に入りました。

一月三日の交流会場の舞台には「ビンフック省人民委員会」「ビンフック省友好委員会連合」そして「日本ベトナム平和連絡会議」「長野ーベトナム交流会」と、両国の国旗も掲げられ、「ビンフック省の再成立日の一五周年を歓迎するためにビンフックと長野の文化の架け橋としてベトナムー日本文化友好交流」「ビンエン市 二〇一一年一月三日」の大きな看板が掲げられています。

はじめにビンフック省人民委員会議長から「政治・経済はこの一五年間で順調に発展し、その発展率は14.83%を超えてきた。越日の関係は一九七三年一〇月から友好が始まり、その友好も発展してきた。日本は一三カ国のうちで一番ODAが大きく、ホンダ、トヨタなどが進出して大きな役割を果たしてきた。文化交流は今年が一回目だが、ベトナムと長野の文化を、これからも継続して交流していきたい」とのお話しがありました。

この後、JVPP訪問団団長の松浦正美JVPP副会長、長野市日本伝統文化交流協会会長で長野訪問団の北澤忠美国長に花束、記念の額が贈られ、記念撮影の後、両国の文化の交流となりました。

日本文化への誘いとして琴の演奏は言うに及ばず、尺八と民謡そしてみごとな着物着付けショウはベトナムの聴衆に驚嘆をもって歓迎されました。これが一つの足がかりにビンフック省と長野県及び長野市との交流が進展することが期待されます。

(鎌田 記)



左：着物ショウの模様 上：公演を終えて



ニンビン少数民族高等学校 奨学金授与式

一般財団法人NGO時遊人

理事 関和久

今年は例年に比べ少し遅い一月三日の訪問となりました。学校に到着するとすでに四五名の奨学生と先生方が並んでいて、盛大に出迎えて頂きました。授与式では、事前に里親の方から預かっていた大きなティベアやウオークマンなどのプレゼントと奨学金を手渡ししました。奨学金支援の目的のひとつである生徒との人間関係の構築が達成できた

45名のプート省少数民族 高校生に奨学金を授与

NPO法人JVPP副会長 松浦正美 (NPO法人ウォーター・ビジョン理事長)

一月四日(日)四五名(一学年一五名)のプート省の少数民族高校生に奨学金を授与するために高校を訪問した。二〇〇八年の夏、はじめて訪問して以来、今回で八回目となる訪問。生徒たちによる少数民族の踊りや歌による歓迎に感激し、「将来、日本とベトナムとの友好に少しでもいいから貢献してほしい」との思いを込めながら一人ひとりに奨学金を手渡した。

さらに、今年は、五月に卒業した第一期の奨学生のうちハノイ市内に在住の六



盛大な出迎えを受ける



45名の奨学生たちと

名とレストランで、会食しながらお話が出来たことが、きわめて印象的なことでした。

ではないかと強く感じました。来年五月には第一期奨学生の卒業式です。三年間支援した生徒との別れは寂しいですが、彼らが夢に向かって歩く手助けができたことを嬉しく思います。

JVPF友好訪問団

枯れ葉剤被害者施設を訪ねる

二月一日から実施された友好訪問団（松浦正美JVPF副会長、総勢六人）は、長野市日本伝統文化交流協会の方々がビンフック省で開催した日越文化交流に参加したほか、世界遺産・ハロン湾クルーズ、ビンフック省BINH XUYEN 工業団地視察、プウト省少数民族出身高校生奨学金授与式、枯れ葉剤爆弾被害者リハビリ施設視察慰問してきました。

ビンフック省「枯れ葉剤爆弾被害者救護センター」視察

ここでは、ビンフック省枯れ葉剤被害者の会会長のハー・デー・キン氏が対応してくれました。

「ここビンフックを訪れてくれてありがとう。ここは国際的な活動として日本との関係も良いところだ。この救護センターは、枯れ葉剤とその他の被害者を応援することが仕事だ」

「その中身は、一つは枯れ葉剤被害児の健康を維持できるように支援・訓練をすること。二つに仕事につけるように技術を習得して被害者が自立できるようにすることが目的だ」

「枯れ葉剤被害者は、大人、子供を合わせて四二〇〇人弱いる。他の原因による障害者は一一〇〇〇人を越える。枯れ葉剤被害者の数は、一世代、二世代の数字であって、三世代はいるのだから正確な数字はまだ分からない。枯れ葉剤被害者たちの思いは、広島、長崎

の子供たちと同じである」

「施設は、枯れ葉剤被害者たちのリハビリできる訓練室がある。四二〇〇人のうち一世代、二世代の人たちの数と一般障害者との比率は半々位」

「一世代はアメリカとの戦争で戦い枯れ葉剤を受けた人たち、二世代は、そこで戦った人たちの子供たちである。アメリカとの戦争では一三カ所で被害を受けたが、その中で一七の病気の種類が出ている」

「この施設は土曜・日曜日が休みで、今日は土曜日なので子供たちはいない。リハビリだけの子供たちは四〇人いる。この運営資金は政府からの援助金だ



訪問団メンバー・ハノイの軍事博物館前で

けで行っているが、仕事の技術を身につける教育は企業の開発も含めた援助がある。」

施設内を見学すると、ベトナムの各企業からの設備援助だけでなく、台湾製の訓練機材やドイツ製の浄水器、などが目に付きます。また政府の援助金で建設された建物も実に立派なものでした。

「ここでリハビリを受けている子供たちは、寮に一〜三ヶ月十二週間交代で入寮し、ここで訓練したものに基づいて自宅でも訓練するようにする」

「施設自体は二〇一二年三月に出来上がったばかりで、スタッフは二二人いるが、これからの運営が難しいところだ。ことと連携できる治療の出来る病院も作る予定だ。今後、ビンフック省の下にある各県に、このような施設を作っていきたいと思う」

「ここには一七歳から一八歳の子供たちが来ている。ハノイにある労働省管轄の病院で手術を終え、その後ここにきてリハビリを行う。このように現在は、病院と連携して行っている。ある一八歳の子はドイツ企業の支援を受けてここにきているが、家はここから四〇km離れており（ズン・

ドアン、チュン・タイン）、両親は離婚、今は母と一緒にいるが余り元気ではなく、父は行方不明。妹がいるが彼女は元気だ」

「現在この施設にある、使われていない新しい機材は、ビンフック省内の各村のリハビリ施設に渡すものだ（ここで「古いものでも良いが車椅子があれば各村に配布したいので欲しい」と言う要望が出される）」

「ミシンなどで作ったものは、ある会社から注文がされ作ったものだが、最終的にはそこが買い取る形になっている（どんなものを作っているかは不明）。研磨作業の訓練も行っている」

以上、説明と施設内を見学させてもらいましたが、私たちが投資して作ったタイビン省の「枯れ葉剤障害児のリハビリ施設」とは大変な差があることに驚かされました。ここは私たちの援助・支援は、ほとんど必要としないのではないかと思えるほど整っていました。

タイビン省枯れ葉剤リハビリセンター慰問

この五月の時に「入院している」と言われていた所長が元気な顔で出迎えてくれました。胃の病であったらしく、「食事規制をしている」とのこと、心なしか少し細くなったよう。五月に対応してくれた副所長は、ハノイに勉強に行っているとのこと。スワン先生は元気そうでした。

所長から現状の話を聞いた跡、子供た

ちのいる棟へと向う。この五月の時には元気にしていた彼女が、少し元気のない顔で他の子が行うリハビリ訓練の手伝いをしていました。この時期、タイピンは大変涼しい(寒いということ)こともあって顔色もよくない。それでも彼女とは肩を組んでスナップを一枚撮る。

あいにく私のカメラには、この日いた子供たち全員の写真は写らない。いつもの私だと動き回って子どもたちの姿をカメラに収めるのだが、私自身の動きは鈍い。それでも忘れずにスワン先生とのツーショットは一枚撮っておきました。

帰り際、私がトイレに立ち寄っている間に、先生方の中で私の健康状態について話されていたのか、所長やスワン先生から「早く健康を取り戻して元気になってください」との温かい言葉を受けてました。私自身も込み上げる涙を堪えて、ここでの分かれとなりました。

(細谷久美子レポート『枯葉剤被害児童の明日に向けて』より抜粋転載)



細谷久美子さんとスワン先生

活き活きタイピン省リハビリ施設の仲間たち



エビ・ストラップ

廃品ビニールを利用して希望をこめて丁寧に編みあげました



彼女がcon tom (エビ・ストラップ)の先生。右の手と足が不自由な彼女は、ほとんど左の手と足で編んでいます。



刺繍絵制作が本格しました。
“タイピン”ブランド?



滞在ボランティアで元気に



タイピン・リハビリ施設での滞在ボランティアが復活しました。二〇一一年八月二日、二三日の二日間という短い期間でしたが、ゆかたとアオザイで盆踊り、歌の交換、ヨガ体操、マジック指導、万華鏡製作など入所者、施設スタッフとの活き活きの時過ごしました。今年も計画します。活き活きをサポートする参加者が不足しています。どなたでも参加できます。御一緒下さい。

- ① ゆかたを着た訓練生たち
- ② 日本側はアオザイを着て、盆踊り交歓
- ③ ラジオヨガ体操を練習

枯葉剤爆弾という不発弾を体内に抱え生きる人々に寄り添う

～枯葉剤爆弾投下から50年、ベトナム中部クアンナム省で枯葉剤爆弾被害者を調査～

1961年8月10日と言われる枯葉剤爆弾投下から50年となった2011年、初めて中部クアンナム省（ダナンのすぐ南）の視察調査を行いました。クアンナム省は、日本人町があったところとして有名な観光地ホイアンと、ミーソン聖域の世界遺産が2箇所もある省で、ベトナム戦争中はアメリカ軍の軍事基地があったすぐ南側ということもあり、攻防が激しく、枯葉剤爆弾も山岳地帯（ラオス国境）を中心に多く投下されたところです。

（JVPF友好訪問団）は5月22日～26日、団長：松浦正美JVPF副会長ら3人は、5月25日クアンナム省で枯葉剤被害事情の調査、視察を行い、同時に2か所の家庭慰問を行いました。

（クアンナム省訪問団）は8月2日、3日に現地を訪問しました。これは吉村玲子さんと平松伴子さんが呼び掛けた「グエン・チ・ビン元副大統領と語り、枯50葉剤爆弾被害者を支援する訪問団」で、JVPFが協力して実施されたもの。

フクシマ原発事故が人のみでなく生存するもの全ての命を脅かす事態にいたっていますが、枯葉剤爆弾も劣らず、50年経った今もベトナム国民に大きな犠牲を強いています。さしずめ人が「不発弾を抱えて暮らしている」状況といえます。事実を記録し残していくことは、今に生きる私達の務めかと思われまます。

家庭慰問① ツン シェン県、ツン シェン村

- 父親 父親1965年～1975年クアンナム省のラオス国境で戦争中に従軍、枯葉剤爆弾に被災。2010年8月、甲状腺ガンで死亡。子どもはKa Van Linhさんと妹の2人。母親は寝たきり。糖尿病。
- 当人 Ka Van Linh（男）42歳。生まれた時から下半身の発達が未熟。右足が左に曲がり、左足も年齢に比べ細い。足の症状は彼だけに発症。25歳で結婚。宝くじ売りで生計。10年くらい前リハビリで病院に行ったが金がなく手術をできない。近くには車いすで動く。全面的治療をしたい。妹はダウン症。
- 子ども（孫）：女兒15歳。奨学金を受け優秀。10歳の男の子は障害がある。
- 援助：母親に1カ月42万ドン（の遺族年金のようなものが支給。父やへの枯葉剤爆弾被災証明はない。Linhさんには1カ月32万ドン、自分も政府の認定はまだ受けられない。妹には3～4年前から72万ドンが政府から支給。（2011年5月25日）



家庭慰問② アンソン（AN XUAN）県、アンソン村

- 母親：ホン、63歳。1954年に入隊。青年同盟に参加。クアンチ、クアンビン、フエなどを3年間転戦した。血圧が高く、皮膚に内出血のような症状、身体がだるく痛い。子どもは1人。
- 父親：78歳。1952年に軍隊に入隊しフランス、アメリカ軍との戦闘に参加。ホンさんとは再婚。再婚前の子どもは4人だが異常はない。
- 子ども：Puong Thi Giang（女）は1985年生まれ、26歳。生まれた時は一般の子供と変わりなかったが、ペロがない。成長するにつれ身体が動かない、手足も動かない、話せない、喋れない、で寝たきりに。生まれて6ヶ月目ごろから19歳まで病院に通う。11歳から12歳の時入院し治療した。19歳以降は援助もなく病院にも行っていない。
- 援助：2011年2月から認定を受け、1カ月77万ドンの援助を受ける。母親は認定を得られていない。「自分も年老いた。子どもより先に死ねない。枯葉剤が憎い」と母親は泣きくれる。（2011年5月25日）



家庭慰問③ NUI THANH市NGUYEN VAN区

- 父親（DIN NGUC ANH）アンさん（75歳） 政府の農業グループで仕事をしていた。戦争中はクアンナム省で従軍。母親（NGUYEN THI XUAN）スアンさん（72歳） 保健施設で仕事。戦争中はビンディン省で従軍。
- 子供3人
長男（42歳）クアン 身体が弱い。大工。結婚している。長男の子供は知能発達不全。
長女（39歳）ニン 身体が弱い。農業。結婚している。
次女（37歳）ヒン 寝たきりの状態。生まれた時は元気だった。5歳くらいから身体が弱くなり、11歳ごろから寝たきりの状態。病院には行ったことがある。枯葉剤爆弾の影響と言われた。
- 政府の援助は、次女に70万ドン（月）
退役兵士手当が父親と母親に夫々 127万ドン（月）、そのほかに年金が父親200万ドン、母親150万ドン。（2011年8月2日）



家庭慰問④ ツイ シュエン県（DUY XUYEN）

- この県には子供含めて2480人の被害者がいる。そのほとんどは家庭にいる。（県被害者団体トン会長、元民兵副隊長）
- 父親フエン・バン・ティン。46歳。農業。戦争中は子供で、この県内にいた。子供の時から病気がち。母親グエン・ティ・ナム。41歳。農業。
- 子供3人
長女ホン（22歳）。生まれた時から動けない。知能発達不全。
次女ベン（17歳）。元気。
長男ハイ（13歳）。長女と同じ症状。
子供の世話母親が行う。外の仕事はほとんどできない。
- 政府の援助は長女、長男夫々 36万ドン（月）。父親も枯葉剤被災者として36万ドン。
- 祖父、祖母とも死亡。農業。（2011年8月3日）



埼玉JVPPF 一歩踏み出す！

二〇一一年九月一七日(土) 埼玉県東松山市内において「日本ベトナム平和友好埼玉連絡会」(以下・埼玉JVPPF)が結成されました。



山下 茂 会長
二〇回の枯
葉剤被害者
救援の「ベト
ナム民族ア
ンサンブル

「埼玉JVPPF」の結成は、一九九六年から延べ
コンサート」開催、「グエン・ティ・ビン」女史の半生を描いた「世界を動かし
た女性 グエン・ティ・ビン ベトナム
元副大統領の勇気と愛と哀しみと」(著
者、平松伴子氏)の出版で、結成への気
運が高まり結成となりました。
発足総会では、山下茂(山下法律事務
所・所長弁護士) 準備会委員長が、「二
回の準備会での話し合いを基に埼玉県で
のベトナム連帯の一步を進めよう」と力
強い挨拶を行い、議長に選出された高橋
康博世話人は、「ベトナムとの交流に携
わってきた多くの皆さんの力を一つにし
て活動を進めていこう」と挨拶を受けて
議案討議に入りました。

枯れ葉剤爆弾投下から50年 『枯れ葉剤に遭った子どもたち』発行の思い

JVPPF会員：細谷久美子

やっと念願の記録を上梓させた。

思えばベトナムの枯れ葉剤に病む人々の実態に触れだしてから一五年、くしくも2011年8月には枯れ葉剤投爆から50年を迎えた。70歳を超えた私に「まとめ」を急がせた理由の一つに、あの東日本大震災の惨状があり、東京電力福島第一原子力発電所の事故があった。どうしても放射能の害にさらされた大人たち、子供たちの姿が、枯れ葉剤で苦闘するベトナムの大人たち、子供たちの姿と二重写しになって頭の中をよぎった。

ベトナム戦争は1975年に終わった。しかし、35年以上経った今でも「枯れ葉剤の被害」は減るところか二世、三世にその被害は及んでいる。これから成長していく日本の子供たち、そして青年男女の行く末が決してベトナムの「枯れ葉剤被害者」のようにはいかないと思う私である。出来ることならこの本は「原発は安全で大丈夫」「今出ている値は直ちに人体には影響がない」という方々にぜひ読んでもらいたいと思うし、今ある原子力発電所を全て「廃止(廃炉)」にせざるを得ない根拠として「枯れ葉剤被害」の実態を直視してもらいたいと思うのである。



発行を急いだもう一つの理由である私の健康は、膀胱癌が再発し、加えて乳癌も見つかり、少し下向き加減の現在ではあるが、病と上手に付き合いつつ、「反原発・脱原発」の戦線で頑張る皆さん方の末席に加わらせていただきたいと願っている。(2011年12月13日)

一昨年、三か年計画で始まりました、育英基金への賛助の呼び掛けで、二〇一〇年度(二〇一〇年九月〜二〇一一年八月)は一、四〇七、〇〇〇円を募ることができました。紙上をお借りして御礼申し上げます。
後、二年継続しなければなりません。同封、案内に基づき、皆様の御協力をお願いする次第です。なお、賛助いただいた方々には別途、「連絡報」をお送りいたします。



村山日本語学校(ホーチミン市)日本語修学高校生育英基金二年度賛助金に御協力お願いします。

具体的活動方針は、①枯葉剤被害者支援キャンペーンの取り組み(ベトナム講演会) ②ベトナム民族アンサンブルコンサート(ベトナム・クアンナム省への医療器具支援の取り組み) ④「埼玉JVPPF訪問団」の募集の取り組み(八月) ⑤ベトナム留学生との交流支援の取り組み ⑥少数民族高校生と村山日本語学校生徒の教護支援の取り組み ⑦「中村梧郎氏の枯葉剤被害写真展」の協力支援―等
役員体制は、会長 山下茂 副会長 森戸由祐、平松伴子 事務局 村田文一

掲示板

- 村山日本語学校育英基金の二年目の賛助金に御協力お願いします。
- 細谷久美子著『枯葉剤に遭った子どもたち』の版布に御協力を。
- 11年8月、平松伴子さんが友好勲章授与される。
- 11年8月、(財)NGO時遊人によって、ランドセル贈呈。ハノイ市内及びビンフック省の小学校に寄贈される。
- 11年8月、平松さんらによって日本語図書がハノイ貿易大学に寄贈される。
- 11年アンサンブルコンサートは、10月13日、26日、大震災・津波被災復興祈念友情コンサートとして開催されました。開催数8回
- 3月、大西理事長ら、かがわJVPPFはハノイ訪問。
- 3月、静岡の有志(鈴木孝雄JVPPF理事ら)がタイピン・リハビリ施設訪問
- 4月、広島JVPPFは、ベトナム中部解放記念日参加のため、来る4月30日にクアンチ省を訪問計画。
- 5月、JVPPF春友好訪問団は、プウット省少数民族高校奨学生卒業式、村山日本語学校卒業式のため実施計画
- 8月、埼玉JVPPFは、クアンナム省での枯葉剤被害者支援・医療器具贈呈のため訪問計画
- 8月、JVPPFタイピンボランティアを8月下旬計画。
- 9月、明大マンドリンハノイ公演をサポート。
- 10月、アンサンブル2012を仕込中。今年は、西日本で予定。
- 第五回通常総会を五月二十六日(土)午後12時予定